

平成 21 年度 教師海外研修（研修国：ウガンダ共和国）実践報告書

1. タイトル:「ウガンダの子どもたちと交流しよう。～視聴覚機器を駆使しながら～」
2. 氏名 :福永 憲昭
3. 学校名(担当学年):石川県加賀市立金明小学校(第2学年)
4. 実践教科(時間数):特別活動(6時間)
5. 対象児童・学年(人数):第2学年(23人)

6. カリキュラム

(1) 実践の目的

- ・ウガンダの子どもたちの取り巻く環境を知り、そこで生活している子どもたちの思いや気持ちを感じ取ることができる。
- ・ウガンダの子どもたちと、モノやテレビ電話での交流を通して、将来、自分たちが世界の人たちと共に生きていこうとする態度を養う。

(2) 授業の構成

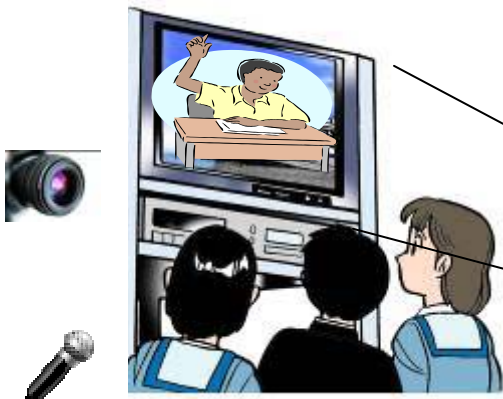
時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
(課外) 「ウガンダの子どもたちに折り紙を作ってあげよう」 ねらい:ウガンダのこどもたちに関心を持つ。	①グーグルアースでウガンダの航空写真や添付されている写真を見て、国土の様子などを見る。	・PC ・プロジェクター
1 限目 「ウガンダってどんな国？」 ねらい:ウガンダの国について関心を持つ。 ウガンダの大まかな位置や気候、文化などについて知る。	①地図、地球儀、グーグルアースで日本からウガンダまでの行程をなぞる。 ②先生が撮ってきたウガンダの写真や動画からどんな国なのか、想像する。	・地図、地球儀、PC プロジェクター ・ウガンダで収集した写真、動画
2限目 「ウガンダの子どもたちってどんな子ども？」 ねらい:ウガンダの子どもたちについて、関心を持ち、自分たちとの共通点、相違点に気づく。	①ウガンダの子どもたちの授業風景や生活習慣を写真や動画を見る。 ②思ったこと考えたことを話し合う。	・ウガンダの子どもたちの写真、動画

3限目 「ウガンダの子どもたちはどんな生活をしているのかな？」 ねらい:ウガンダの子どもたちの生活について知る。	①ウガンダの子どもたちの、学校生活や家庭生活、遊び、お小遣い等についてのクイズを楽しむ。 ②思ったこと考えたことを話し合う。	・パワーポイントで作ったクイズ
4限目 「ウガンダの子どもたちの大切にしているものって？」 ねらい:ウガンダの子どもたちの大切にしているものの絵を見ながら、ウガンダの子どもたちの内面について考える。	①ウガンダの子どもたちが描いた絵「あなたにとって大切なものはなんですか？」を見て、思ったこと考えたことを発表する。 ②どんな物が大切にしているか話し合い、ウガンダの子どもたちの内面について探る。	・ウガンダの子どもたちが描いた絵 ・自分たちが描いた絵
5限目 「ウガンダの子どもたちと交流しよう！」 ねらい:ウガンダの子どもたちとテレビ電話での交流を通して、積極的に関わりながら、より親しみを持つ。	①スカイプでウガンダの子どもたちと歌や九九暗唱、にらめっこなどの遊びで交流する。 ②協力隊のTさんを通じて、ウガンダの子どもたちに質問をする。 ③振り返りを書く。	・スカイプ ・歌や遊びで必要なもの
6限目 「ウガンダの子どもたちにおくりものを送ろう。」 ねらい:ウガンダの子どもたちに贈り物を贈る活動を通して、将来、世界の人たちと交流することが可能であることを実感する。	①ウガンダの子どもたちに贈り物をすることを知る。 ②贈り物を作って、ウガンダに送る。 ③これまでの学習を振り返る。	・贈り物の材料 ・箱

(3) 本時の学習 (5/6時間)

テーマ **ウガンダの子どもたちとこうりゅうしよう。**

1. ねらい:ウガンダの子どもたちとテレビ電話での交流を通して、積極的に関わりながら、より親しみを持つ。
2. 対象:2年生(23人)
3. 時間:45分
4. 展開

	学習活動	・準備物
導入	①本時のめあてを知る。 ウガンダの子どもたちとこうりゅうしよう。	・ウガンダの子どもたちから送られてきたクラフト。 ・世界地図
展開	②ウガンダの子どもたちとテレビ電話を使って交流する。 (1) 出会い、子どもたち同士自由に手を振るなどやり取りする。 (2) 歌「スマイルアゲイン」を発表する。 (3) ウガンダの子どもたちの歌(国歌、童謡)を聞く。 (4) 日本とウガンダ、お互いの特技を発表し合う。 (九九、絵、にらめっこなど) (5) ウガンダの協力隊のTさんを通して、子どもたちに知りたいことを質問する。 	・ノート型パソコン ・テレビ電話ソフト ・マイク ・スピーカー ・プロジェクター ・スクリーン ・インターネット回線 ・CDラジカセ ・発表する時に使う小道具 ・携帯電話 
まとめ	③本時の振り返りをプリントに書き、話し合う。	・ワークシート

7.授業の詳細

課外(海外研修前)

- 「先生は夏休みに、ウガンダという国に行きます。」

クラスの子どもたちへこう告げた。子どもたちは、とても不思議そうな顔をしていた。ウガンダという言葉は初めて聞いたのかもしれない。そこで、グーグルアースを使って、地球上のウガンダの位置と航空写真による国土の様子や写真などを示した。すると、すごい遠くのところに行くんだな～、といった思いの子どもたち。そこで、

「先生は、ウガンダの子どもたちに会って、みんなのことを話します。その時に、ウガンダの子どもたちにみんなから渡したいものないですか？」

と聞いたら、

「何か渡したい！」

ということになり、子どもたちの好きな折り紙を作り、渡すことになった。

1 時間目

- ① ウガンダから帰国して、興奮冷めやらぬ数日経ったある日、私の家に、ナマガビビショップブラウン小学校の子どもたちから小包が届いた。2学期が始まってすぐ、その小包を教室の子どもたちに見せた。

「ウガンダの子どもたちから、折り紙のお礼で、こんな小包が届きました！」

子どもたちは、「えっ！」と驚いた表情で小包を見つめた。そして、子どもたちと一緒に小包を開封した。開封する時、「何だろう？」とうれしそうな表情の子どもたち。中には、バナナの皮で作った絵のクラフトが入っていた。また、添えられたT隊員の手紙を全員の前で読んだ。そのクラフト絵を一人ひとりに手渡し、よく見たり触ってみたい匂いをかいで見たりしてウガンダからの贈り物を感じさせることができた。子どもたちから、

「すごい！」「上手～」

との声があがった。遠い国の子どもたちからの贈り物に感激していたようだ。



実際に送られてきたウガンダの子どもたちによるクラフトの画像（1部）。バナナの皮などで作られている。

- ② 贈り物が送られたウガンダについて、地図上・地球儀上で示した後で、プロジェクターを使いながらグーグルアースで位置を確かめさせた。また、衛星写真を拡大して見せて、首都や町、地形の様子を眺められるようにした。



- ③ ウガンダで撮った写真や動画を見せて、ウガンダの町並みや自然の様子を観察し合い、思ったことを発表し合う機会を持った。

「自然がたくさんある。」

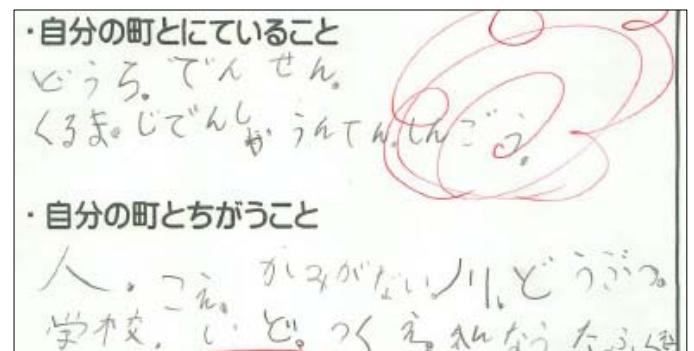
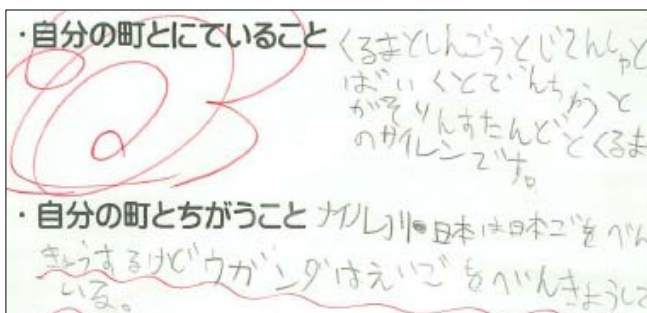
「日本の車と同じだ。」

「英語をしゃべっている」

など、子どもたちは思い思い話した。



- ④ 子どもたちに、ウガンダについて分かったことをプリントに書くようにした。



【児童のワークシートより】

・自分の町とにていること

- ・ 自転車（車）が日本とおなじ形 ・ 家 ・ 車 ・ 自転車 ・ ホテル ・ 信号 ・ バイク
- ・ 横断歩道 ・ マンション ・ 電線 ・ 電線柱 ・ 運転 ・ ガソリンスタンド ・ 看板 ・ 草むら ・ 木

・自分の町とちがうこと

- ・ スーパー ・ 学校 ・ 学校の周りに森があった ・ 車のプレート ・ 信号が少ない ・ ご飯 ・ 川
- ・ 渋滞している ・ 学校の中が小さい ・ 髪の毛が短い ・ 肌が黒い ・ 家が小さい ・ お店 ・ 家
- ・ 運転 ・ 人 ・ 声 ・ 動物 ・ 井戸 ・ 机 ・ 歌 ・ 服装 ・ 英語 ・ 車の音が違う

- ・ ランドセル
- ・ 日本は日本語を勉強するけど、ウガンダは英語を勉強している。 ・ 顔が小さい。
- ・ 横断歩道が少ない。 ・ 女の子でも髪が短いところが違う。 ・ くだものとかを頭にのせている。
- ・ ナンバープレートの文字

・ おもったこと

- ・ 違うところがあるんだなあ。 ・ みんな日本とちがう食べ物を食べていた。 ・ 学校の机が長い。
- ・ 服装が違う。 ・ 学校がせまいところにある。 ・ 日本とほとんど車とものが似ている。
- ・ 車運転がとっても危険。 ・ 事故りそう。 ・ いろんなところが違います。 ・ 日本とちがう。
- ・ 日本より自然がいっぱいある。 ・ 人数が多い。 ・ 水を自分でくんですごいと思った。

(福永の所感)

- ・ 授業中、「日本の車が多かったり、信号が日本のと同じだったりするのは、日本から送られているから。車や信号を造る技術が足りないから」という児童がいた。よく知っているなあ、と感心した。
- ・ 違いによく気づく子どもがいた。子どもたちが英語を話していることなど。
- ・ 写真やビデオを駆使したら、集中がよく続き、また楽しくウガンダについて進めることができた。

2 時間目

- ① ウガンダの子どもたちの写真や動画をプロジェクターで見せた。特に、学校の様子と町の様子を分けて見せた。



子どもたちは、ウガンダの子どもたちの生活の様子を見て、自分たちとの違いがたくさんあることに気づいた。

- ② ふりかえりの場では、子どもたちの中から、
「英語のべんきょうをずっとしているからすごいです。日本の学校とちがう。先生が言っていることに真剣。」とあった。

3 時間目

- ① 子どもたちに「ウガンダの子どもたちクイズ」をする際に、T隊員からメールで子どもたちの様子を教えてもらった。それが、問題作りの土台となった。問題は、ウガンダの子どもたちの「学校の生活の様子」「家庭での生活の様子」「仕事とお小遣い」「T隊員が感じた子どもたちの違い」などで、クイズに答えながら、子どもたちに、ウガンダの子どもたちの実情をクイズ形式で紹介した。
- ② パワーポイントでクイズを作った結果、子どもたちは楽しみながら、クイズに挑戦し盛り上がった。クイズの中でも、ウガンダの子どもたちについて詳しく知るための説明を付け加えた。これまで、写真やビデオを見せる授業が続いていたので、このようなパワーポイントによるクイズは、子どもたちに飽きさせないものであった。



・自分たちとにていること

- ・ 絵 ・ チョーク、黒板 ・ サッカーをするところ ・ あそび ・ 土

・自分たちとちがうこと

- ・ 机 ・ 教室 ・ 教室に電気がない ・ 肌の色 ・ 電気 ・ いす ・ えんぴつ ・ 髪が短い
- ・ クラスに人がいすぎ ・ 服 ・ ズボン ・ 学年が1年ちがう ・ 人数が多い
- ・ ゴム跳びでバナナの皮を使うところ ・ お小遣いが0円 ・ 金の言い方（シリング）
- ・ 昼ごはん
- ・ 家の仕事をするところ ・ 日本は学校が終わったら家の手伝いをしない

・水汲みをするところ

おもったこと

- ・ みんな体が黒い ・ ランドセルがあるのかな ・ 学校がちがう ・ 机が長かった
- ・ ぜんぜんちがう ・ 学年が1年おそい。 ・ 英語のべんきょうをずっとしているからすごいです。
- ・ ゴム跳びのとき、バナナの皮でするのがすごいです。
- ・ 日本の学校とちがう ・ 学校が小さかった ・ 学校がふるい ・ 先生が言っていることにしんけん
- ・ 子どもたちがいい子 ・ 家の仕事をしてすごいと思った。

かんそう

- ・ サッカーが同じで楽しそう。 ・ ゴム跳びとバナナの皮で作るのがちがう（難しそう）
- ・ 女の子がゴム跳びをするなんて思わなかった。
- ・ ウガンダの女子はドッチが好きなんて知らなかった。
- ・ お小遣いがもらえなくてかわいそうだった。（※似た感想が多数ありました。）
- ・ ゴム跳びのゴムがバナナの皮でできていてすごいと思った。
- ・ クイズが面白かった。サッカーとゴム跳びとかが木で作るなんてすごい。
- ・ 8時間目があるとは知らなかった。 ・ サッカーが似ていた。
- ・ おどりが面白そうだった。
- ・ いっぱい同じものがあった。
- ・ 金属がない（※野球での遊びがないところから）

4 時間目

① 海外研修中の私の授業で、ナマガビビショップブラウンの子どもたちに絵を描いてもらった。題して「1番大切なものは？」である。その絵を持って帰り、この時間にクラスの子どもたちに見せた。

「わあ、すごい。」

「めっちゃうまいのもある。」

と、いう声が多く聞こえた。その中に、

「色がうすいなあ」

と、ある男の子がつぶやいた。それはどうしてかの疑問をきっかけに、ウガンダの学校の絵を描く文房具についてもふれることができた。

②そして、夏休み前に同じテーマで描いた自分たちの絵と見比べて、ウガンダの子どもたちが大切にしているものと、自分たちのものとの違いについて考えた。



③ ウガンダの子どもたちについて分かったことをプリントに書くようにし、発表し合った。

・自分の大切にしているものとにているもの

- ・ 家 ・ かぞく ・ フルーツ ・ しぜん ・ どうぶつ ・ 人 ・ 友だち ・ たべもの ・ たてもの
- ・ 木 ・ お家がいっしょだった ・ どうぶつ ・ 町

・自分が大切にしているものとちがうもの

(日本にあってウガンダにないもの)

- ・ お金 ・ 星座 ・ DS ・ 地球 ・ ドラゴン ・ ゲーム ・ パン

(ウガンダにあって日本にないもの)

- ・ トイレ ・ 花 ・ たいふう ・ サッカー場 ・ たいそう ・ どうぶつ
- ・ 学校 ・ ふく ・ 心臓(ハート) ・ いのち
- ・ ジュース ・ くるま ・ はたけ ・ ほし ・ ようふく ・ うし
- ・ ころも ・ はた(国旗) ・ つくえ ・ とり ・ 水 ・ びょういん

思ったこと

- ・ ちょっとにている。 ・ にているなと思った。 ・ ほとんど同じものだった。 ・ すごい絵がじょうず。
- ・ ほとんどのものが同じだね。 ・ 日本の絵とウガンダの絵がぜんぜんちがう。
- ・ うしがうかんでいる。 ・ ウガンダの子どもたちの絵がすごい。 ・ いい子どもだと思う。
- ・ マンションがなかった。 ・ サッカー場が大切なのかなと思った。 ・ ジュースとかあるの。
- ・ ウガンダの人たちは、同じものとかをかいている!?
- ・ なんで台風が大事だろう。花もなんで大事なのかな?おもしろいと思う。かわってるところもある。すごい絵がじょうず。
- ・ いろいろあった。絵がじょうず。ウガンダと金明の絵がちがう。自然がいっぱいあった。ウガンダの子どもたちのところにジュースがちょっとしかないのかわいそうと思いました。
- ・ のみものは水とかしかないのかな。 ・ たいふうってなんでだいじなのかな。
- ・ サッカーをつくるなんてすごい。 ・ フルーツをつくるをどこでとるの。

5 時間目

- ① いよいよ本時である。この時間では、実際にウガンダの子どもたちとインターネットの回線を使って、テレビ電話で交流する。この時間のために、協力隊のTさんとメールやスカイプで事前の打ち合わせを綿密に行った。また、実際に交流が出来るか、教室でリハーサルを行った。すると、ウガンダの学校における電波状況や、停電による電源の不足、時差による授業開始時間の調整など、問題がたくさんあった。それらの問題をTさんの尽力によって、一つひとつクリアしていった。また、ウガンダの子どもたちには、朝の 7 時に学校に来てくれるようにしてくれた。これらことを子どもたちに話すと、子どもたちはまた一層ウガンダの子どもたちの様子や環境について理解することができた。



ナマガビビショップブラウン小学校で活躍している
協力隊のTさん

- ② 授業が始まると、子どもたちはわくわくして、ウガンダの子どもたちと交信がつながるのを待った。早速スカイプを起動して、今回ウガンダでパソコンとネット回線をTさんに貸していただいた廣末さんのアカウントにつなぐようにした。、、、しかし、なかなかつながらず、授業本番にしてネットの回線が悪かったようだ。リハーサルでは、すぐにつないだのに、。何度も試みたら、一瞬つながるようになった。
「もしもし～、聞こえますか～？」
(ブツッ！)
この調子が15分くらい続いた。
やはり、ウガンダのネット環境が不安定なので、海外との交流授業は、相手国の環境によって不具合が生じやすい。今後の課題が残った。

- ③ しかし、子どもたちの願いが通じたのか、ようやくつながることができ、回線も安定した。画面には、ウガンダの子どもたちの顔が映り、声もはっきりと聞こえるようになった。交流授業のスタートである。

交流会「ウガンダの子どもたちとこうりゅうしよう」プログラム

- ① 歌「スマイルアゲイン」（金明小学校）
- ② 歌「ウガンダ国歌」「童謡」（ナマガビビショップブラウン小学校）
- ③ 絵の紹介（金明小学校）
- ④ 九九の暗誦（金明小学校、ナマガビビショップブラウン小学校）
- ⑤ にらめっこ世界大会（金明小学校、ナマガビビショップブラウン小学校）
- ⑥ 協力隊のTさんに質問





授業の詳細は、下記のJICA北陸のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.jica.go.jp/hokuriku/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

歌や絵は、言語が通じない同士でも、おおいその良さや思いが感覚的にコミュニケーションできた。子どもたちは、ウガンダの独特な歌声と曲を聴いて、自分たちとは違うウガンダの文化について体験できた。また、ウガンダの九九を聞いて、ウガンダの子どもたちも同じ九九を勉強しているんだと、共通点にも気づくことができた。にらめっこでは、同じルールのもとで、お互い表情によるコミュニケーションで遊ぶことができた。お互いの教室で大爆笑が沸き起こった。このテレビ電話を介した交流会で、子どもたちはより一層ウガンダの子どもたちに対して親しみを持つことができた。

ふりかえり

- ・ ウガンダの子どもたちがこうなんだと思いました。
- ・ ウガンダの子どもたちが全員ちゃいろの顔だった。
- ・ ウガンダの子どもたちとしゃべったこと
- ・ なんであんなにちがうんだろう。
- ・ ウガンダの人は、髪の毛が短い。なんで肌の色が違うのだろう。
- ・ 校歌が長かったです。
- ・ 遠いのによくつながったな。
- ・ とても楽しかった。
- ・ とっても遠いところにいることが分かった。
- ・ ウガンダの子どもたちとの交流が楽しかった。
- ・ 日本とウガンダ、違うから何で違うのかな。
- ・ 何で一緒に交流が出来たのかな。
- ・ みんな楽しそうだった。
- ・ ウガンダの子どもたちがやさしいことが思いました。

6 時間目

- ① さて、いよいよウガンダの子どもたちのクラフトのお礼に、自分たちが贈り物を送る時間となった。テレビ電話での交流会で、ウガンダの子どもたちに絵を見せた時、大きな拍手があったので、絵を送ろうということになった。絵は、画用紙に描いたものと、図工の時間に取り組んだ作品を絵葉書にしてプレゼントすることにした。また、折り紙が得意なので、折り紙も添えることにした。子どもたちからの要望で、食べ物など送ろうとしたが、税関で引かかる恐れがあるのでやめた。



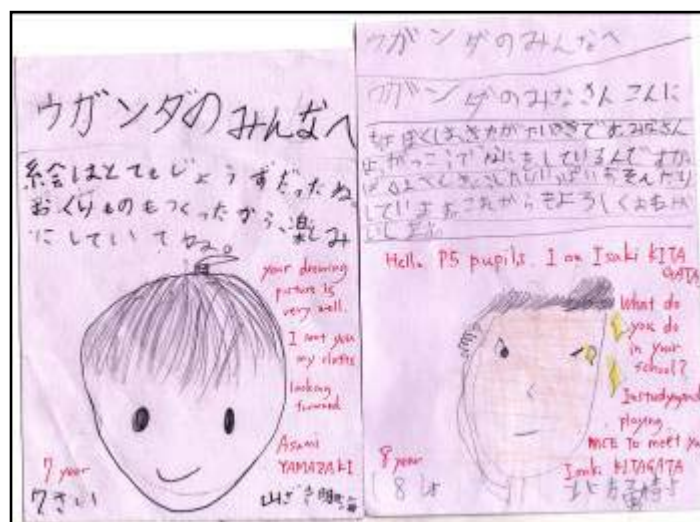
- ② さっそく、つくってできたところで自分たちのメッセージを添えることにした。それには、名前と年もしっかりと書き、自分たちの思いをウガンダの子どもたちに届くように願いを込めた。

「英語で書かなくてもいいの？」

と相手を気遣う質問があったのがよかった。しっかり英語を話すことを理解している。

「先生が英語で横に書いておくよ。」

と言い、子どもたちは思い思いにメッセージを書いた。



- ③ 最後にクラス全員の写真をとり、金明小学校2年生の姿をウガンダの子どもたちに見てもらうようにした。金明小学校とナマガビビショップブラウン小学校の子どもたちは、海で大きく隔たれている国同士だが、同じ時代を共に生きている仲間として、確かに互いが存在していることを実感できたようだ。将来、子どもたちが大きくなった時に、今回交流した経験を思い出して、世界中の人たちと自信を持って関わり合っ



子どもたちは自分が描いたメッセージカードを手になっている。また、ウガンダの子どもたちから送られてきたクラフトを持って、自分たちが気に入っているよ、とアピールしている。後ろに掲示してある布は、クラフトと共に包んで送られてきたものがある。

8.資料など

- ・ 世界地図 ・地球儀 ・パソコン ・ウガンダで撮影した写真、動画
- ・ 自分たちが描いた絵 ・ウガンダの子どもたちが描いた絵
- ・ ウガンダの子どもたちから送られてきたクラフト
- ・ ウガンダの子どもたちの写真・動画
- ・ 携帯電話 ・スピーカー ・マイク ・プロジェクター ・インターネット(スカイプ)
- ・ CDラジカセ
- ・ 協力隊のTさんの写真
- ・ 協力隊のTさんからのウガンダの子どもたちに関する詳しいメール
- ・ 贈り物の材料
- ・ 箱